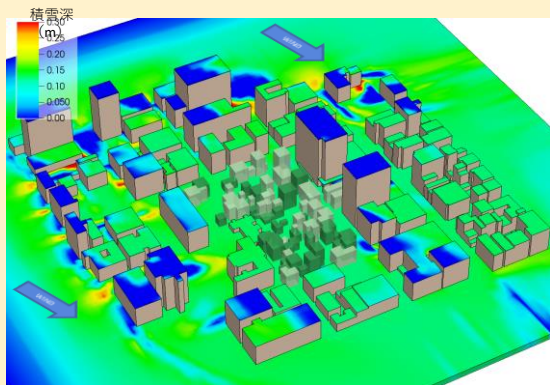


シミュレーション技術を活用して、建築物周辺の雪の動きを予測することで、建築物や街区の雪害を軽減することが可能となります。

積雪寒冷地の建築物や街区・都市空間では、冬の間、様々な雪の問題が発生しています。道路分野で開発・活用されてきた「吹雪シミュレーションモデル」を用いると、都市空間内の雪の移動状況や積雪がたまる状況、建物の屋上や凹凸部での積雪量分布を予測することが可能です。

その結果を建築分野の雪専門家が解釈し、危険性を評価、そして雪害を軽減するための方策・対策を提案します。もちろんその対策の効果も、再度シミュレーションで評価することもできます。

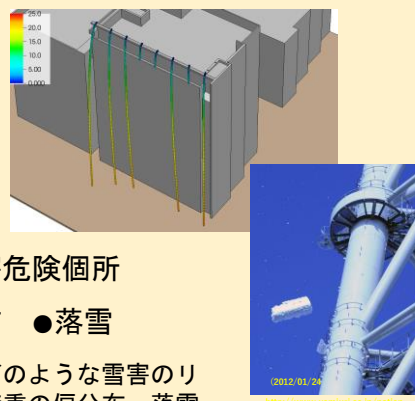
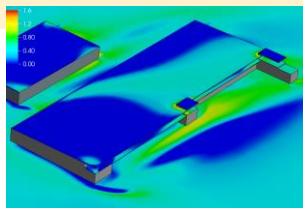
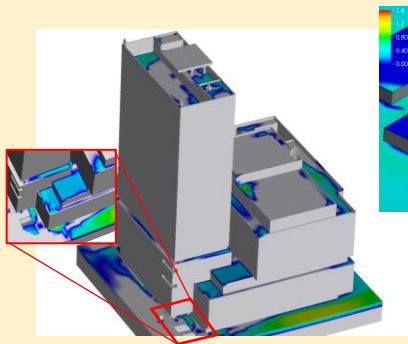
街区内の積雪分布



- 街区空間の気流や飛雪の分布
- 対象建築物まわりの積雪分布

エントランスや公共領域等、動線上の積雪量を評価することで、計画段階はもとより詳細設計の段階でも対応策を検討することができます。

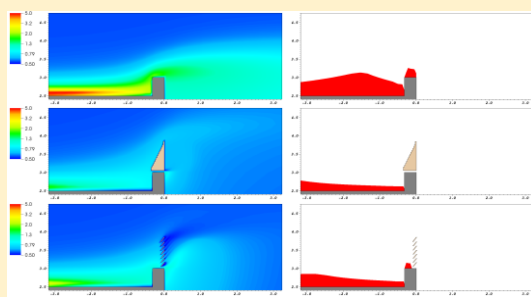
高層建築物・大スパン建築物の雪の影響



- 大きな建物の雪害危険箇所
- 屋根上の積雪分布 ● 落雪

大きな建築物のどこにどのような雪害のリスクがあるか、屋根雪荷重の偏分布、落雪によるリスク等を評価します。

ディテールに着目した評価



- 雪庇の危険箇所、対策の検討

建物の雪庇の発生機構は複雑なため（写真参照）、シミュレーションによる評価が有効です。対策施設の評価も可能です。